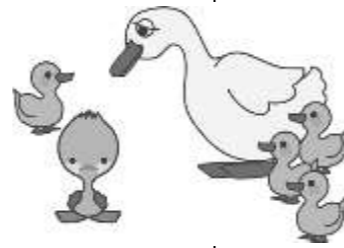


白鳥になれなかったアヒルの子（なりたい自分になれなくても・・・）

みなさんはアンデルセン童話「みにくいアヒルの子」を知っていますか？こんなお話です。

あるところにアヒルのお母さんがいました。お母さんが温めた卵からは、次から次へとかわいいアヒルの子が生まれていきましたが、1羽だけ体の大きさも色も違う子どもがいました。そのアヒルの子はきょうだいから、見た目が自分たちと違うからと「おまえとなんて遊ばないよ」といじめられ、他の鳥からも「なんてみにくい（かわいくない）アヒルの子なんでしょう！」とバカにされ続けました。ところが時間がたち春になると、大人になったみにくいアヒルの子は美しい白鳥になっていました。そう。みにくいアヒルの子はアヒルではなく白鳥の子だったので、アヒルのきょうだいたちと違う姿だったのです。そのあとみにくいアヒルの子は白鳥として、仲間たちと幸せに暮らしました・・・。



みにくいアヒルの子はきょうだいと見た目が違うというだけで仲間はずれにされ、いじめられ続けましたが、本当は白鳥の子だったので、何も努力しなくても「きれい！すてき！」とほめられる白鳥になり、同じ白鳥の仲間たちと幸せに暮らすことができました。

でもこれが逆だったら・・・自分は大きくなったら白鳥になれると思っていたのに、白鳥になれなかったアヒルの子の話だったら、ハッピーエンドになったでしょうか。

10月になり、（もう進路が決まっている人もいますが）3年生の進路活動が本格的に始まりました。就職や専門学校、大学の入学試験では、合格する人もいれば不合格になる人もいます。いつまでも進路が決まらなかったり、自分が希望していた会社や専門学校、大学が不合格になったり、希望していなかった会社や専門学校、大学に行くことになる人もいます。そんなとき、こんなことを思うかもしれません。

あんなにがんばったのにダメだった
どうせなにをやったってムダなんだ
どうせ自分はダメなんだ
自分を受け入れてくれる、必要としてくれる会社や学校はないんだ
こんなことなら、最初からがんばらなければよかった



それはまるで、白鳥になれなかったアヒルの子・・・のような気持ちかもしれません。

では白鳥になれなかったら、願いがかなわなかったら、それはムダなのでしょうか？失敗なのでしょうか？

さて、わたしは白鳥になれなかった（なりたい自分になれなかった）アヒルの子でした。

小さいときから絵を描くのが好きで、図工の時間は大好きだったし、ひまな時間には自分でマンガを描いたりしていました。3つ上の兄はとても絵がうまくて、絵を描けばいつも賞状をもらっていて、わたしが小学校に入学したときには学校の廊下に兄が描いた絵が額に入って飾ってあるほどでした。一方わたしは絵を描くのは好きだったのにとっても下手で、図工や美術の成績はいつもダメでした。それでも絵を描くこと自体は好きだったので、高校の芸術選択で美術を選択しました。油絵というものを描いてみたかったのです。ところが（今思えば当たり前なのですが）美術選択の人たちの絵は本当に上手で、わたしはそこで、いかに自分が絵が下手なのかを思い知らされました。今でも忘れませんが、最初に描いた自画像のキャンバスの裏には評価が「D」と書かれていて（ふつうはABC）、もちろん美術の成績も赤点すれすれ（課題は出したのでセーフ）。それはまさに、自分はどんなにがんばっても白鳥にはなれない（絵が上手になれない）アヒルの子（絵が下手な人）なのだ、実感した瞬間でした。



しかも兄と同じ高校だったために、美術の先生から「お兄さんは本当に絵が上手だったね～」と言われ、白鳥だった（絵が上手だった）兄と比べられ、とても悲しくなりました。

ちなみに芸術選択は2年間だったと思うのですが、それ以降の美術の授業の記憶は全くないし、その後自宅でもマンガや絵を描くことはやめてしまいました。

もともとマンガ家になりたいとか、絵を描く仕事をしたいとか、絵の勉強をしたいとかそんな気持ちは全くなく、描くことが好きだけでしたが、そんなことを思うことさえはずかしいことのように思ってしまったからです。



いくらがんばってもダメだった
才能がある人にはかなわない（兄が絵を練習しているところなんて見たことがないのに、とても上手）
自分はこんなに絵が下手だったのか（それなのに美術を選択してしまっただけではずかしい）
もうはずかしくて人に絵は見せられないし、絵が好きだなんて言えない



そんな気持ちでいっぱいでした。

それから何年かたち、わたしは小学校の保健室の先生になりました。たまたまその小学校が、先生たちが「図工」の授業のやり方について勉強している学校だったので、わたしも一緒に勉強させてもらいました。その中で「絵に間違いは無い」とか「図工の作品はこどもたちがもっと自由に表現していい」とか、新しい図工の授業のやり方を聞いているうちに、絵が下手でも自由に描いていいのかもしれない・・・と思えるようになりました。そこでまずは、図工の勉強会で習ったように画用紙を指でちぎって保健室の掲示物を作ってみました。

するとそれがほかの先生たちから好評で、今度は職員玄関の掲示板に自分が作ったものを季節ごとに飾らせてもらうようになりました。あたたかみがあってかわいいね！と、絵ではほめられたことがなかったわたしが、先生たちからほめられるようになったのです。そのあとはマンガを描いていた経験を活かし、下手ながらも手作りで紙芝居を作ったり、自分が作った台本で保健委員に体育館で劇をやってもらったり、給食の放送で録音した劇を流してもらったりして、劇をやった保健委員も聞いた先生や子どもたちもとても喜んでくれて、今でもわたしにとっては楽しかった思い出です。

あれから長い年月が経ち、わたしも周りの評価が気にならない年になり、今では健康診断のときなどに服装や検診の受け方の説明のために自分が描いた絵を堂々？見せられるようになりました。

そして劇も、橘高校の先生たちに協力してもらって12月の薬物乱用防止教室でみんなに見てもらう予定です。ずいぶん時間はかかりましたが、絵を描くことやマンガを描くことが好きで、下手でも描き続けていたことが役に立っている今、自分が好きなことやがんばったことというのはすぐには結果が出なくても、ムダにはならないと感じています。

今進路に向かってがんばっていて苦しい思いをしている3年生も、そして今、1・2年生で高校生活を楽しんでいる人、学校に来るのがつらいと思うくらい悩んでいる人、どうせ自分なんてだめだ、何をやってもムダなような気がしている人も、どんな経験もムダにはなりません。白鳥になりたかったのになれなかったとしても（たとえなりたかった自分、自分が望んだ結果にならなかったとしても）気がついたら、りっぱなアヒル（自分を好きになって生き生きとしている人）になっているかもしれません。

大切なのは、それが何の役に立つか、それが実現するかどうかという結果よりも、自分が今できることをひとつひとつやっていくことです。この橘高校にいる間は、もし途中で心が折れそうになったとしても相談できるたくさん先生がいます。また保健室でも、白鳥（絵が上手な人）にはなれなかったけど、りっぱなアヒルになった（絵が下手でもどうどうとしている？）わたしが、あなたを待っています。落ちこんで、もうやめる！とあきらめて投げ出す前に、相談に来てくださいね。

